

「延長と規模拡大が必要」

国土強靱化で足立参院議員

自民党の足立敏之参院議員は5日の参院国土交通委員会で、台風19号で約7500万立方メートルを貯留した八ツ場ダム(群馬県)が「(下流の利根川に対し)明らかに洪水調節効果を発揮した」と主張した。災害時にインフラが果たす効果を強調した上で、「防災・減災、国土強靱化(きょうじん)化のための3か年緊急対策」を見直し、「延長措置と規模の拡大が必要だ」と訴えた。

台風19号による記録的な大雨は71河川・140ヶ所で大規模な堤防決壊を招いた。一方、利根川の埼玉

の、越水は免れた。足立議員は、10月1日からの試験湛水(たんすい)で7500万立方メートルを貯留した八ツ場ダムをはじめ、利根川上流のタ

ム群が被害を軽減したと強調。ダムの洪水調節効果を疑問視する声を「まったく科学的根拠がない」と一蹴した。被災した河川の復旧に



当たっては、被災前の河川に復旧する原形復旧では「不十分だ」と述べ、「安全度を上げるために計画対象流量

を増加させる『改良復旧』を行うべきだ」と強調した。国土交通省の五道仁実水管理・国土保全局長も「堤防の嵩上げや河道の拡幅など、機能を強化する改良復旧は極めて重要」と応じた。

さらに足立議員は、被災地の復旧に向けて「大型補正予算の編成が必要だ」とも述べ、3か年緊急対策の見直しとともに、気候変動の影響を踏まえた大幅な公共事業費の増額を要求。赤羽一嘉国交相は「中長期の予算確保は被災自治体の思いでもある。被災地の側に立った施策を講じるため、しっかりと予算を確保していきたい」と答弁した。